

4月	<b>単元名</b>	<b>1 わかりやすく あらわそう (2時間)</b>		
	目標	身の回りにある数量の特徴をとらえることに興味をもち、それらを分類整理して、簡単な表やグラフを用いて表したり読み取ったりすることができるようにする。		
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動	
	○身の回りにある数量を分類整理して、一次元表やグラフに表したり、それらを読み取ったりすることができる。	2	・表やグラフを読み、そのよさについて話し合う。 ※元の資料を分類整理して表やグラフの有用性に気付かせる。	
(関)身の回りにある数量を分類整理して、表やグラフに整理することのよさに気付き、活用しようとする。 (考)数量を分類整理する方法や表やグラフを用いて表す方法を考え工夫している。 (技)身の回りにある数量を分類整理して表やグラフに表したり、それらを読み取ったりすることができる。 (知)分類整理した数量を表やグラフを用いて表すことのよさについて理解している。				
4月中旬	<b>単元名</b>	<b>2 たし算のしかたを考えよう (10時間)</b>		
	目標	2位数の加法の筆算の仕方について理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いる能力を伸ばし、加法についての理解を深める。		
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動	
	○2位数の加法計算の仕方を通して、加法の筆算の仕方を理解する。	3	・25+14の計算の仕方について考える。 ※10のまとまりと端数に分けて、位ごとに計算することをおさえる。	
	○2位数+1、2位数=2位数(繰り上がりなし、空位、欠位あり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。		・筆算の仕方をまとめる。 ・30+24、30+20、32+4、6+50の筆算の仕方を考える。	
	○2位数+2位数=2位数(繰り上がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	4	・37+28の筆算の仕方を考え、まとめる。 ◆計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして表す活動	
	○2位数+1、2位数=2位数を(繰り上がりあり、答えの一の位に空位あり、欠位あり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。		・28+32、28+6、28+2の筆算の仕方を考える。 ・文章題や問題作りに取り組む。	
○加法について交換法則が成り立つことを理解する。	1			
○学習内容の理解を確実にする。	2	・加法計算をして、交換法則を用いて答えを確かめる。 ・「しあげのもんだい」などに取り組む。		
(関)2位数の加法計算について、筆算形式のよさに気付き生活や学習に活用しようとする。 (考)2位数の加法の筆算の仕方を、図や式などを用いて考え表現することができる。 (表)2位数の加法計算について、筆算の手順を基に、確実に計算することができる。 (知)2位数の加法計算が1位数などの基本的な計算を基にしてできることを知り、その筆算の仕方について理解する。				
5月	<b>単元名</b>	<b>3 ひき算のしかたを考えよう (10時間)</b>		
	目標	2位数の減法の筆算の仕方について理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いる能力を伸ばし、減法についての理解を深める。		
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動	

	○2 位数の減法計算の仕方を考えることを通して、減法の筆算の仕方を理解する。 ○2 位数-1、2 位数（繰り下がりがなし）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	3	・39-15 の計算の仕方について考える。 ※10 のまとまりと端数に分けて、位ごとに計算することをおさえる。 ・筆算の仕方をまとめる。 ・37-20、37-27、30-20、37-35、37-5 の筆算の仕方を考える。
	○2 位数-2 位数（繰り下がりがあり）の筆算の仕方を理解しその計算ができる。 ○2 位数-1、2 位数（繰り下がりがあり、空位、欠位あり）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	4	・45-18 の筆算の仕方を考える。 ◆計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして表す活動 ・筆算の仕方をまとめる。 40-18、45-38 の筆算の仕方を考える。 ・文章題や問題作りに取り組む。
	○減法と加法の関係を理解し、確かめに用いることができる。	1	・減法計算をして、減法と加法の関係をを用いて答えを確かめる。
	○学習内容の理解を確実にする。	2	・「しあげのもんだい」などに取り組む。
	(関)2 位数の減法計算について、筆算形式のよさに気付き生活や学習に活用しようとする。 (考)2 位数の減法の筆算の仕方を、図や式などを用いて考え表現している。 (技)2 位数の減法計算について、筆算の手順を基に、確実に計算することができている。 (知)2 位数の減法計算が1 位数などの基本的な計算を基にしてできることを知り、その筆算の仕方について理解している。		
	<b>単元名</b>	<b>4 長さを はかろう (10時間)</b>	
5 月 下 旬	目標 長さの測定などの活動を通して、単位の意味と測定の原理を理解し、長さの測定ができるようにするとともに、長さについて量の感覚を身に付けられるようにする。		
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○普遍単位の必要性に気付き、長さを表す単位「センチメートル (cm)」を知り、その読み方や書き方を理解する。 ○測定の仕方を身に付ける。	3	・任意単位の比較の限界について話し合う。 ※だれにでもわかるような長さの表し方が必要であることをおさえる。 ・長さの単位「センチメートル (cm)」を知り、1cm 目盛りの簡易物差しで、長さをはかる。 ◆長さについて、およその見当を付けたり、単位を用いて測定したりする活動
	○「mm」を知り 1 cm=10mm の関係を理解する。 ○ものさしの目盛りの読み方を理解し測定の仕方に習熟する。 ○直線の意味を知り、指定された長さの直線を、物差しを使ってひくことができる。	4	・1 cm未満の長さの表し方を考える。 ・1 cmを 10 等分した1 つ分の長さを「1 ミリメートル」といい、「1 mm」と書くことを知る。 ・1 c m=10mm の関係を理解する。 ・ものさしの目盛りを読む練習をする。 ・「直線」の意味を知る。 ・ものさしを用いた直線のひき方を練習する。
	○長さの加減計算の仕方を理解する。	1	・2本の折れ線の長さの差を、加減計算を適用して求める。
	○学習内容の理解を確実にする。	2	・「しあげのもんだい」などに取り組む。
	(関)身の回りにあるものの長さに関心をもち、量感を基に見当をつけて測定しようとする。 (考)普遍単位の必要性に気付き、長さの表し方を考え表現することができる。 (表)長さの単位を用いて、身の回りの具体物の長さを測定したり、指定された長さの直線をひいたりすることができる。 (知)長さについて単位と測定の意味や、単位の関係、ものさしの目盛りの仕組みを理解する。		
	<b>単元名</b>	<b>5 100より大きい数をしらべよう (13時間)</b>	
6 月	目標 1000 までの数についてその表し方を理解し、数の概念について理解を深めるとともに数を用いる能力を伸ばす。		

目標		時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
○3 位数の読み方や表し方を理解する。 ○3 位数の位取りの仕組みや数の構成を理解する。 ○数の相対的な大きさを理解する。 ○数直線の読み取りを通して3 位数の大小、順序を理解する。 ○1000 の構成、数の読み方、書き方及び1000 付近の数を理解する。 ○1000 までの数の構成を多面的にとらえ、数の見方を豊かにする。	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・235 個のクリップの数を工夫して数え、235 の数構成と命数法、記数法を知り、クリップの数を数字で表す。用語「百の位」を知る。</li> <li>◆具体物をまとめて数えたり等分したりし、それを整理して表す活動</li> <li>※既習から類推して3 位数の表し方を考えさせる。</li> <li>・位取り板と数カードを使って、各位の数を読み取ったり、3 位数を数カードで表したりする。</li> <li>・3 位数の構成を基にした表し方（合成・分解）を練習する。3 位数の構成を、等式を使って表す。</li> <li>・230 などの数を、10 を単位にして考える。</li> <li>・数直線を見て指示された目盛りの数を読んだり、数直線上に数を表したりする。</li> <li>・百を10こ集めた数を「千」といい、「1000」と書くことを知る。</li> <li>・1000 までの数の多様な見方について考える。</li> </ul>	
○何十±何十、何百±何百などの計算の仕方を理解し、その計算ができる。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何十±何十、何百±何百などの計算の仕方を、数の構成（10がいくつ、100がいくつ）に着目して考え、説明する。</li> </ul>	
○不等号、等号の意味を理解し、数と数、数と式の大小、相当関係を式に表すことができる。	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不等号「<math>&gt;</math>」「<math>&lt;</math>」を用いた式の表し方を知り、数の大小を不等号を用いて表す。</li> <li>・数と式の大小、相当関係の表し方を知る。</li> </ul>	
○算数的活動を通して学習内容の理解を深め、数についての興味を広げる。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[やってみよう] 以下の活動に取り組む。</li> </ul>	
○学習内容の理解を確実にする。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「しあげのもんだい」などに取り組む。</li> </ul>	
<p>(関) 10や100のまとまりにして数えるよさに気付き、十進位取り記数法と関連付けてとらえたり、計算の仕方に活用したりしようとする。</p> <p>(考) 十進位取り記数法の仕組みを考え表現したり、数を相対的な大きさからとらえたりしている。</p> <p>(技) 3位数について、書いたり読んだりするとともに、数や式の大小・相等関係を、不等号や等号を用いて表すことができている。</p> <p>(知) 3位数の読み方や表し方、構成や大小、順序、数の相対的な大きさを理解している。</p>			
6 月 下 旬	<b>単元名</b>	<b>6 水のかさを はかろう (8時間)</b>	
	目標	体積の測定などの活動を通して、長さの学習を基に単位の意味と測定の原理を理解し、体積の測定ができるようにするとともに、体積について量の感覚を身に付けられるようにする。	
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
○普遍単位の必要性、有用性を理解する。	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・任意単位の比較の限界と普遍単位の有用性について考える。</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>○体積を表す単位「dL」「L」「mL」を知り、読み方や書き方を理解する。</li> <li>○1 L = 10dL、1 L = 1000mL の関係、LやdLを使った体積の表し方を理解する。</li> <li>○体積についても加減計算が適用できることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体積の単位「デシリットル (dL)」「リットル (L)」「ミリリットル (mL)」を知り、身の回りの容器に入る体積を1L、1 dLのますではかる。</li> <li>◆身の回りにあるものの体積について、およその見当を付けたり、単位を用いて測定する活動</li> <li>・LやdLを用いて、体積を表す。</li> <li>・2つの水筒に入る水の体積の和や差を加法や減法を用いて求める。</li> <li>※長さと同様、かさにも加法性があること、同じ単位同士で計算すればよいことを確認する。</li> </ul>
○学習内容の理解を確認する。	2
<p>(関)身の回りにある入れ物に入る水の体積に関心をもち、量感を基に見当をつけて測定しようとする。</p> <p>(考)長さの学習を基に体積の普遍単位の必要性に気付き体積の表し方を考え表現している。</p> <p>(技)体積の単位を用いて身の回りにある入れ物に入る水の体積を測定することができている。</p> <p>(知)体積について単位と測定の意味や、単位の間を関係を理解している。</p>	

【授業における評価計画例】 第1時

○授業の概略

- ※問題場面（数種類の容器に入る水の体積を数値化する場面）をとらえる。
- ※グループごとに測定する容器と任意単位とする容器を自由に選ばせ、測定と記録をする。
- ※各グループの結果を話し合い、任意単位の限界、普遍単位の必要性に気づく。

○評価の観点及び評価規準

<数学的な考え方>長さの学習経験を生かして、体積についても普遍単位の必要性や有用性について考えている。

●各学校の評価の基準になる児童の姿の例

A 十分満足できると判断されるもの

積を比較するときは同じ任意単位でないと比べられないことに気付き、いつでも誰にでも体積を分かりやすく表すには長さと同じように普遍単位があるといいと考えている。

B おおむね満足できると判断されるもの

数種類の容器に入る水の体積を任意単位を用いて表し、記録をすることができ、任意単位によって結果がかわっていることに気付いている。

●評価の方法と視点

- ※体積を比べる活動の様子やノートの記述から読み取る。
  - ・正しく測定することができているか。
- ※発表・検討の際の発言や反応を観察する。
  - ・体積を比較するときは同じ任意単位でないと比べられないことに気付き、説明しているか。
  - ・長さと同じように普遍単位が必要であることに気付き、説明しているか。

7 月 中 旬	<b>単元名</b>	<b>7 時計を生活に生かそう（2時間）</b>	
	目標	時刻と時間の概念、日、時、分の単位やそれらの関係を理解し、それらを日常生活に用いることができるようにする。	
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○「時刻」「時間」の意味や、時、分の関係を理解する。 ○「午前」「午後」の意味や、日、時の関係を理解する。	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵を見て、各場面の時刻を読む。</li> <li>・図を見て、「時刻」と「時間」の意味の違いを考える。</li> <li>・簡単な場合の時刻や時間を求める。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間=60分であることを知る。</li> <li>・絵を見て、同じ読み方の時刻が1日に2回あることに気づき、「午前」と「午後」の意味を知る。</li> <li>・午前、午後ともに12時間あることから、1日=24時間であることをおさえる。</li> </ul>
9月	<b>単元名</b>	<b>8 計算のしかたをくふうしよう (4時間)</b>	
	目標	加法の結合法則、簡単な加減の暗算の仕方を理解することを通して、加減計算についての理解を深め、それを用いる能力を伸ばす。	
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○加法の結合法則と、( )の使い方を理解する。 ○3口の数の加法計算の仕方を考え、( )を用いた式に表すこと、及び( )を用いた式から考えを読み取ることができる。	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>15+40+30</math>の計算の仕方を考える。</li> <li>・加法ではたす順序を変えても答えは同じになることをまとめる。</li> <li>・( )の使い方を知り3口の数の加法計算に適用する。</li> <li>・( )を用いた式を読み、どのように考えたかを説明する。</li> </ul>
	○簡単な加減法の暗算の仕方を理解し暗算ができる。	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>26+7</math>、<math>42-7</math>の計算を暗算でする方法をいろいろ考え、加減法の暗算の計算練習に取り組む。</li> </ul>
	<p>(関) 計算法則や数の見方や構成を活用するよさに気づき、計算の仕方を工夫しようとする。  (考) ( )の中を1つの数とみて、式の意味を考え表現したり、場面を式に表したりしている。  (技) 3口の数の加法計算について、結合法則などを基に、工夫して計算することができている。  簡単な加減法の暗算ができている。  (知) 加法の結合法則や( )の使い方を理解している。</p>		
9月	<b>単元名</b>	<b>9 ひっ算のしかたを考えよう (11時間)</b>	
	目標	既習の筆算を基に、2位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方について理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いる能力を伸ばす。 筆算形式による3位数+1、2位数(百の位への繰り上がりなし)、3位数-1、2位数(百の位からの繰り下がりなし)の計算の仕方について理解する。	
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○2位数+2位数=3位数(百の位への繰り上がりあり)の筆算の仕方を理解しその計算ができる。 ○2位数+2位数=3位数(十、百の位への繰り上がりあり)や、2位数+1、2位数=3位数(百の位への波及的繰り上がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>83+46</math>の筆算の仕方を考え、まとめる。</li> <li>※十の位の8と4をあわせて12になり、100のまとまり1つを百の位に繰り上げて答えを求めていることをおさえる。</li> <li>◆既習の学習を基に、計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして表す活動</li> <li>・<math>76+58</math>、<math>46+57</math>、<math>93+8</math>の筆算の仕方を考える。</li> <li>・筆算の仕方をまとめる。</li> <li>・「力をつけるもんだい」に取り組む。</li> </ul>
	○3位数-2位数(百の位からの繰り下がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 ○3位数-2位数(十、百の位からの繰り下がりあり)の筆算の仕方を理解し計算ができる。 ○3位数-1、2位数(十、百の位からの波及的繰り下がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>129-53</math>、<math>146-89</math>の筆算の仕方を考え、まとめる。</li> <li>・<math>102-65</math>の筆算の仕方を考え、まとめる。</li> <li>◆既習の学習を基に、計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして表す活動</li> <li>・計算練習をする。</li> <li>・文章題を解決する。</li> </ul>

	○3位数+1、2位数（百の位への繰り上がりなし）や3位数-1、2位数（百の位からの繰り下がりなし）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	2	・415+32、348-25の筆算を既習内容を基に考える。 ・筆算の仕方をまとめ、計算練習をする。 ※本小単元の内容は、「スパイラルのため重複させる内容」であり、次学年で確実な習得をねらう。	
	○学習内容の理解を確実にする。	2	・「しあげのもんだい」などに取り組む。	
	<p>(関) 2、3位数の加減の筆算のよさに気付き、生活や学習に活用しようとする。</p> <p>(考) 既習の筆算を基に、2位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方を考え表現している。</p> <p>(技) 2位数の加法及びその逆の減法の計算について、筆算の手順を基に、確実に計算することができる</p> <p>(知) 2位数の加法及びその逆の減法の計算が、1位数などの基本的な計算を基にできることを知り、それらの筆算の仕方について理解している。</p>			
9 月 下 旬	<b>単元名</b>	<b>10 形を しらべよう (9時間)</b>		
	目標	平面図形に親しみ、図形についての感覚を豊かにするとともに、三角形、四角形などの構成要素をとらえ、それらの意味や性質を理解する。		
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動	
	○三角形、四角形の意味や性質を理解する。 ○三角形、四角形についての理解を確実にする。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・辺や頂点の数に着目して、パズルの各ピースを仲間分けすることで、「三角形」「四角形」の意味や性質を理解する。</li> <li>・図形を弁別したり格子点を直線で結んで三角形や四角形などの基本図形を構成する。</li> </ul>	
	○直角の意味を知り直角を見つけることができる。 ○長方形を構成要素に着目して見ることを通して、長方形の意味や性質を理解する。 ○正方形を構成要素に着目して見ることを通して、正方形の意味や性質を理解する。 ○長方形、正方形を対角線で分割してできた三角形を、構成要素に着目して見ることを通して、直角三角形の意味や性質を理解する。 ○方眼を利用して長方形、正方形、直角三角形を作図することができる。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙を折って直角を作る活動を通して、平角を2等分した形を「直角」と知り、身の回りから探す。</li> <li>・不定形の紙を折って長方形を作り、すべてのかどが直角であることを確かめる。</li> <li>・「長方形」の意味や性質をまとめ、弁別する。</li> <li>・長方形の紙を折ってはみだした部分を切り取って正方形を作り、すべてのかどが直角で、すべての辺の長さが等しいことを調べる。</li> <li>・「正方形」の意味や性質をまとめ、弁別する。</li> <li>・長方形、正方形を対角線で分割してできた形について考える。</li> <li>・「直角三角形」の意味や性質をまとめる。</li> <li>・方眼を利用して、指定された長方形、正方形、直角三角形を作図する。</li> <li>◆正方形、長方形、直角三角形をかいたり、作ったりする活動</li> </ul>	
	○学習内容の理解を確実にする。	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「やってみよう」に取り組む。</li> <li>・「しあげのもんだい」などに取り組む。</li> </ul>	
	<p>(関) 身の回りにあるものの形の中から、三角形や四角形、長方形や正方形などを見つけようとする。</p> <p>(考) 辺や頂点などの構成要素に着目して、三角形や四角形、長方形や正方形などの特徴を見出している。</p> <p>(技) 紙を折って直角を作ったり、長方形や正方形などを作図したりすることができる。</p> <p>(知) 三角形や四角形、直角、長方形、正方形、直角三角形の意味や性質を理解している。</p>			

【授業における評価計画例】 第2次 第1時

○授業の概略

- ※正方形の色紙を折ったり、切ったりして合同な長方形や直角三角形などを多数作る。
- ※合同な直角三角形や長方形などを使って、敷き詰め模様を作る。

○評価の観点及び評価規準

＜関心・意欲・態度＞学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。

●各学校の評価の基準になる児童の姿の例

A 十分満足できると判断されるもの

合同な長方形や直角三角形を多数作り、それらを使って敷き詰め模様を作っている。

B おおむね満足できると判断されるもの

四角形や三角形を使い、敷き詰め模様を作ろうとしている。

●評価の方法と視点

※活動の様子やノートの記事から読み取る。

- ・直角部分、辺の長さに着目して、同じ形と大きさの長方形や直角三角形を作っているか。
- ・合同な形を用いて敷き詰め模様を作っているか。

10 月 中 旬	単元名	11 新しい 計算を 考えよう (25時間)		
	目標	乗法の意味について理解し、それを用いることができるようにする。		
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動	
	○「1 つ分の数」「いくつ分」をとらえ、「1 つ分の数」と「いくつ分」の関係の場合に乗法が用いられることを知り乗法の意味を理解する。 ○乗法の意味の理解を確実にする。 ○乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。 ○倍の意味を知り、ある量の何倍かにあたる量を求めるときもかけ算を用いることを理解する。 ○身の回りから乗法で全体の個数を求められる場面を見出し簡潔に表現できることの実感する。	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「1 つ分の数」と「いくつ分」をとらえる。</li> <li>・絵やおはじきを使って、全体の人数の求め方を言葉で説明する。</li> <li>・用語「かけ算」と記号「×」を知る。</li> <li>・乗法の場面をおはじきや式に表す。</li> <li>・問題場面から数量の関係をとらえ、乗法の答えは、被乗数を乗数の数だけ累加して求められることをまとめる。</li> <li>・3cm の2つ分を、3cm の「2 ばい」ということを知り、<math>3 \times 2</math> のかけ算の式になることを知る。</li> <li>・身の回りから、かけ算の式になる場面を見出す。</li> <li>◆数量についての具体的な場面を式に表したり、式を具体的な場面に結びつけたりする活動</li> <li>・「力をつけるもんだい」に取り組む。</li> </ul>	
	○5 の段、2 の段の九九を構成し、記憶、適用する。	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・累加や5 とび、2 とびなどを用いて5 の段、2 の段の九九を構成し、記憶する。</li> <li>・5、2 の段の九九の答えは5 ずつ、2 ずつ増えていることを確認する。</li> <li>・用語「九九」を知る。</li> <li>◆乗法九九を構成したり観察したりして、計算の性質やきまりを見つける活動</li> <li>・5、2 の段の九九を用いて問題を解決する。</li> </ul>	

	○3の段、4の段の九九を構成し、記憶、適用する。 ○問題作りによる式の読みや式に表現することをと通して、5、2、3、4の段の理解を深める。	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かける数が1増えると3の段は3、4の段は4増えていることを活用して、3、4の段の九九を構成し、記憶する。</li> <li>・用語「かけられる数」「かける数」を知る。</li> <li>・乗数が1増えると3の段の九九は3、4の段の九九は4増えることを確認する。</li> <li>◆乗法九九を構成したり観察したりして、計算の性質やきまりを見つける活動</li> <li>・3、4の段の九九を用いて問題を解決する</li> <li>・絵や日常生活の中から、乗法の式に表すことができる場面を探し、式に表す。</li> </ul>
	○学習内容の理解を確実にする。	2	・「しあげのもんだい」などに取り組む。
	<p>(関)乗法のよさについて気付きものの全体の個数をとらえるときに乗法を用いようとする。  (考)累加の考えや乗数と積の関係などを基に、乗法九九の構成の仕方を考え表現している。  (技)乗法が用いられる場面を絵や図、言葉、式で表すことができる。乗法九九(5、2、3、4の段)を構成し、確実に唱えることができている。  (知)乗法九九が用いられる場合や乗法九九について知り、乗法の意味を理解している。乗法九九に関して成り立つ性質(乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則)を理解している。</p>		
11 月 下 旬	<b>単元名</b>	<b>12 九九をつくろう (17時間)</b>	
	目標	乗法の意味について理解を深め、それを用いることができるようにする。	
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○6、7の段の九九の構成の仕方を理解する。 ○6、7の段の九九を確実に唱え、適用することができる。	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・累加や乗数と積の関係など既習の考えを活用して、6、7の九九を構成し記憶する。</li> <li>・6、7の段の九九を見直し、九九表やアレイ図などを基にして、交換法則や分配法則が成り立っていることを確認する。</li> <li>◆乗法九九を構成したり観察したりして、計算の性質やきまりを見つける活動</li> <li>・6、7の段の九九を用いて問題を解決する。</li> </ul>
	○8の段、9の段の九九の構成の仕方を理解する。 ○8の段、9の段の九九を確実に唱え、適用することができる。 ○1の段の九九を構成し、かけ算の意味の理解を確実にする。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の性質やきまりを活用して、いろいろな方法で8、9の段の九九を構成し、記憶する。</li> <li>◆乗法九九を構成したり観察したりして、計算の性質やきまりを見つける活動</li> <li>・8、9の段の九九を用いて問題を解決する。</li> <li>・場面をとらえ、<math>1 \times 6</math>の式からかけ算の意味を確かめる。</li> <li>・1の段の九九を構成し、記憶する。</li> </ul>
	○同じ3倍でも、基準量が異なれば比較量も異なることを理解し、「倍」の意味についての理解を深める。	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・㊦、㊧のテープの3倍の長さに色を塗り、基準とする長さによって「3倍」の長さが異なることをおさえる。</li> <li>・㊦、㊧のテープの3倍の長さの求め方を考える。</li> </ul>
○九九表からきまりを見付ける活動を通して、乗数と積の関係や、乗法の交換法則についての理解を深める。 ○乗法の性質やきまりを用いて、簡単な場合の2位数と1位数の乗法の答えの求め方を理解する。	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九九表を見て、これまで九九の構成で用いた乗数と積の関係や、乗法の交換法則を確認し、分配法則について調べる。</li> <li>・九九表を基に、学習してきた性質やきまりを用いて、被乗数が2位数のかけ算について答えの求め方を考える。</li> <li>◆九九表を観察して、計算の性質やきまりを見つける活動</li> </ul>	



	○乗法九九を活用して問題を解決し九九の理解を深める。	2	・個数のいろいろな求め方を絵や図を基に考え、発表し、検討する。
	○学習内容の理解を確実にする。	2	・「しあげの몬드」などに取り組む。
	<p>(関) 乗法について成り立つ性質やきまりを用いることよきに気づき、乗法九九の構成や計算の仕方を考えることに活用しようとする。</p> <p>(考) 乗法について成り立つ性質やきまりを用いて、乗法九九の構成の仕方を考え工夫し、表現している。</p> <p>(技) 乗法九九 (6、7、8、9、1の段) を構成し、確実に唱えることができている。</p> <p>(知) 乗法九九について知り、乗法に関して成り立つ性質の理解を確実にする。</p>		
1 月 中 旬	<b>単元名</b>	<b>13 1000より 大きい 数を しらべよう (11時間)</b>	
	目標	10000 までの数について、その意味や表し方を理解し、数の概念についての理解を深めるとともに、数を用いる能力をいっそう伸ばす。	
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○10000 未満の数の数え方と命数法、記数法、4 位数の位取りの仕組みを理解する。	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2354 個の一円玉の数を工夫して数える。</li> <li>◆具体物をまとめて数え、それを整理して表す活動</li> <li>※既習である 3 位数の書き方から類推して、4 位数の表し方を考えさせる。</li> <li>・2354 の数構成と命数法、記数法を知り、1 円玉の数を数字で表す。用語「千の位」を知る。</li> <li>・4 位数を読んだり書いたりする。</li> <li>・各位の数を読み取ったり、4 位数を数カードで表したりする。</li> <li>・4 位数の構成を基にした表し方 (合成・分解) を練習する。</li> <li>・4 位数の構成や大小を、等式、不等式を使って表す。</li> <li>・2300 などの数を 100 を単位として考える。</li> <li>・数構成 (100 がいくつ) に基づいて、<math>800+700</math> や <math>1400-500</math> の計算をする。</li> <li>・数直線を見て指示された目盛りの数を読んだり、数直線上に数を表したりする。</li> <li>・千を 10 こ集めた数を「一万」といい、「10000」と書くことを知る。</li> <li>・4 位数の多様な見方について考え、説明する。</li> </ul>
	○空位のある 4 位数の記数法を理解するとともに、4 位数の位取りの仕組みの理解を深める。		
○数カードをならべて数を表すことを通して、10000 未満の数の構成について理解する。			
○数の相対的な大きさを理解する。			
○数直線の読み取りを通して 4 位数の大小、順序を理解する。			
○10000 の構成、数の読み方、書き方及び 10000 付近の数を理解する。			
○10000 までの数の構成を多面的にとらえ、数の見方を豊かにする。			
○学習内容の理解を確実にする。	1	・「しあげの몬드」などに取り組む。	
	<p>(関) 身の回りにある数に関心をもち、十進位取り記数法のよきに気づいて、日常生活や計算の仕方に活用しようとする。</p> <p>(考) 十進位取り記数法の仕組みを考え表現したり数を相対的な大きさからとらえたりしている。</p> <p>(技) 4 位数について、書いたり読んだりするとともに、数や式の大小・相等関係を、不等号や等号を用いて表すことができている。</p> <p>(知) 4 位数について、数の読み方や表し方、数の構成や大小、順序、数の相対的な大きさを理解している。</p>		
1 月 下 旬	<b>単元名</b>	<b>14 長さをはかろう (7時間)</b>	
	目標	長いものの長さの測定などの活動を通して、単位の意味と測定の原理を理解し、長さの測定ができるようにするとともに、長さについて量の感覚を身に付けられるようにする。	
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○長さを表す単位「メートル (m)」を知り、 $1\text{m}=100\text{cm}$ の関係を理解する。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・120 cmの長さの表し方について問題点を話し合う。</li> <li>・長さの単位「メートル (m)」を知り、<math>1\text{m}=100\text{cm}</math> の関係を確認する。</li> </ul>

	○m、cmの単位を用いて、長さを表すことができる。 ○測定活動を通して1mの量感を養う。		※上位単位の必要性を感じさせてから知らせる。 ・「メートル(m)」、「センチメートル(cm)」を用いて、長さを表す。 ・棒をつないだ全体の長さを加法を適用して求める。 ・1m物差しを使って、いろいろなものの長さをはかる。 ◆身の回りにあるものの長さについて、およその見当を付けたり単位を用いたりして測定したりする活動
	○学習内容の理解を確実にする。	3	・「しあげのもんだい」などに取り組む。
	(関)身の回りにあるものの長さに関心を持ち、量感を基に見当をつけて測定しようとする。 (考)上位単位の必要性に気付き、既習の学習を基に長いものの長さを表す単位について考えている (技)1mのものさしを用いて長さを測定することができ、その長さを適切な単位を用いて表すことができている。 (知)長さについて単位と測定の意味や、単位の関係を理解している。		
2月	<b>単元名</b>	<b>15 図をつかって考えよう (7時間)</b>	
	目標 加法と減法の相互関係について理解して、場面を式に表したり式を読み取ったりし、問題を解決する能力を伸ばす。		
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動
	○テープ図を見ながら、数量の関係をとらえることを通して、加法と減法の相互関係を理解する。 ○加法逆の減法の問題解決を通して、加法と減法の相互関係についての理解を深める。 ○減法逆の加法の問題解決を通して、加法と減法の相互関係についての理解を深める。	7	・色紙の総数、赤い色紙の枚数、青い色紙の枚数を求める場合についてテープ図を基にそれぞれの問題構造を把握し、答えを求める式を考える。 ※最初の段階では、教師が問題場面に合わせてテープ図をかくなどしながら、徐々にテープ図に慣れさせるようにする。 ◆加法と減法の相互関係を図や式に表し、説明する活動 ・加法逆の減法の問題場面をテープ図や、□を用いた式に表して、数量の関係をとらえ解決する。 ・減法逆の加法の問題場面をテープ図や、□を用いた式に表して、数量の関係をとらえ解決する。
	○減法逆の加法、加法逆の減法の問題解決を通して、加法と減法の相互関係についての理解を確実にする。		・減法逆の加法の適用問題を解決する。 ・加法逆の減法の適用問題を解決する。
	(関)加法と減法の相互関係に関心を持ち、場面を図に表すことによさに気づいて問題の解決に用いようとする。 (考)場面を図に表して構造をとらえ、式について考え表現している。 (技)加法と減法の相互関係を表した図を用いて、図や式に表し、問題を解決することができている。 (知)加法と減法の相互関係について理解している。		

【授業における評価計画例】 第4時

○授業の概略

- ※問題場面をとらえる。
- ※テープ図を手がかりに数量の関係をとらえ、問題を解決する。
- ※立式の根拠について話し合う。
- ※問題の答えを確認し、テープ図の使い方を整理する。

○評価の観点及び評価規準

〈技能〉場面を表したテープ図を基に、加法逆の減法、減法逆の加法の問題を解決することができる。

●各学校の評価の基準になる児童の姿の例

A 十分満足できると判断されるもの

数量関係を整理しながらテープ図をかき、それを基に問題を解決し、立式の根拠を説明することができる。

B おおむね満足できると判断されるもの

与えられたテープ図に数量を書きこむことで、数量関係を把握し、立式する。

●評価の方法と視点

- ※ノートの記述から読み取る。
  - ・数量の関係を整理し、正しくテープ図に表すことができているか。
- ※発表・検討の際の発言や反応を観察する。
  - ・テープ図を基に立式の根拠を説明しているか。

2	<b>単元名</b>	<b>16 分けた 大きさを あらわそう (4時間)</b>		
月	目標	分数を用いるともものを半分や四半分にした大きさを表せることを知り、日常生活の中で分数を用いる能力を身に付けられるようにする。		
中	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動	
旬	○半分にした大きさを二分の一といい、 $1/2$ と書くことを理解する。	4	・正方形の紙を半分に折って切り分け同じ形であることを確かめ二分の一の意味と書き方を知る。	
	○四半分にした大きさを四分の一といい、 $1/4$ と書くことを理解する。		・長方形の紙を半分の半分に折って切り分け、同じ形であることを確かめ、四分の一の意味と書き方を知る。 ※円・立体などの等分も示し、生活に活用できるようにする。	
	(関)身の回りにあるものの大きさを、二分の一や四分の一を使って表そうとする。			
	(考)分数の大きさについて、元の大きさや分けた大きさはすべて等しいことに着目して考えている。			
	(技)紙などを折って、元の大きさの二分の一や四分の一を作ることができる。			
	(知)半分や四半分にした大きさを、それぞれ元の大きさの二分の一、四分の一といい、 $1/2$ 、 $1/4$ と書くことを理解している。			

【授業における評価計画例】 第1次 第1時

○授業の概略

※正方形の紙を半分に折って切り分け、同じ形であることを確かめる。

※「半分にする。」ということの意味を確認して、同じ大きさに2つに分けた1つ分を、もとの大きさの「二分の一」といい、「1/2」と書くことを知る。

※長方形の紙を半分に折って切り、もとの大きさの1/2を作る。

○評価の観点及び評価規準

＜知識・理解＞半分にした大きさをもとの大きさの二分の一といい、1/2 と書くことを理解する。

●各学校の評価の基準になる児童の姿の例

A 十分満足できると判断されるもの

B おおむね満足できると判断されるもの

長方形の紙を半分に折って切り、もとの大きさの二分の一を作り、切った2つの紙を重ね合わせて同じ大きさであることを確かめている。

長方形の紙を半分に折り、もとの大きさの二分の一を作ることができている。

●評価の方法と視点

※活動の様子やノートの記事から読み取る。

- ・長方形の紙を半分に折っている。
- ・切った2つの紙を重ねて同じ大きさであることを確かめている。

2 月 下 旬	<b>単元名</b>		<b>17 はこを作ろう (6時間)</b>	
	目標 箱の形をしたものを観察したり作ったりする活動を通して、図形を構成する要素を理解するとともに、立体図形の基礎的な概念を理解する。			
	目標	時	・主な学習活動 ※指導上の工夫 ◆算数的活動	
	○箱の形(直方体や立方体)に親しみ、立体と平面の関係を知り、その面の形や数をとらえることができる。 ○組み立てた箱を考察することを通して、箱の形についての理解を深める。 ○直方体や立方体の頂点、辺の数などの構成要素を理解する。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箱の作り方について考える。</li> <li>・用語「面」を知る。</li> <li>・箱の面を紙に写し取る。</li> <li>・紙に写し取った箱の面の形や数を調べる。</li> <li>・写し取った面の形を切り取って、つなぎ合わせ方を考えながら、テープで貼りつけて箱を作る。</li> <li>・組み立てた箱を基に同じ長さの辺について考察する活動に取り組む。</li> <li>・箱の形の骨格模型を作るために必要な粘土玉(頂点)の数とひご(辺)の長さや本数を調べる。</li> </ul>	
○学習内容の理解を確実にする。	1	・「しあげのもんたい」などに取り組む。		
<p>(関)身の回りにあるものの形の中から、箱の形をしたものを見付けようとする。</p> <p>(考)頂点、辺、面などの構成要素に着目して、箱の形の特徴を見出している。</p> <p>(技)正方形や長方形を組み合わせたり、ひごなどを用いたりして、箱の形を構成することができる。</p> <p>(知)箱の形をしたものの構成要素について理解している。</p>				